

令和7年2月26日

下関市議会議長

香 川 昌 則 様

文教厚生委員長

坂 本 晴 美

委員会所管事務調査結果報告書

本委員会は、その所管事務について調査を行い、その結果を本会議において報告することに決したので、別紙のとおり申し出ます。

1 調査を行った事件名

- (1) 子育て支援について
- (2) 高齢者の福祉について
- (3) 子どもをとりまく教育環境の充実について
- (4) 子育てに係る人材不足について

2 調査の経過と結果の概要

○ 調査の経過

第1回定例会（3／14、18）

- ・報告 下関市立学校適正規模・適正配置事業の進捗状況について
- ・報告 下関市教育委員会と下関市立大学との包括連携協定締結について
- ・報告 放課後児童クラブの状況について
- ・報告 下関市こども家庭センターの設置について
- ・報告 福祉バス事業について
- ・報告 第九次下関市いきいきシルバープラン（高齢者福祉計画・介護保険事業計画）について
- ・報告 下関市障害者計画・下関市障害福祉計画（第7期）・下関市障害児福祉計画（第3期）について

第1回臨時会（5／15）

- ・報告 障害児通所支援事業所の指定に係る総量規制の取扱いについて
- ・報告 「家族でやま学の日」について

第2回定例会（6／10、14）

- ・報告 下関市学校給食施設の再編に関する基礎調査について
- ・報告 新下関学校給食センターについて
- ・報告 中・高校生駅周辺学習スペース提供事業について
- ・報告 令和6年度特定教育・保育施設等の入園状況について
- ・報告 下関市新社会福祉センターについて
- ・報告 令和6年度放課後児童クラブの入会状況について
- ・勉強会 放課後児童クラブの支援員の確保について（こども未来部）

市外視察（7／29－31）

- ・フレイル対策について（千葉県柏市）
- ・不登校支援の取組について（東京都調布市）
- ・調布市青少年ステーションCAPSについて（東京都調布市）
- ・多摩市立中央図書館について（東京都多摩市）

第3回定例会（9／3、10）

- ・報告 令和7年度下関市立就学前施設の園児募集について
- ・報告第33号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検評価報告書の提出について
- ・報告 下関市立学校適正規模・適正配置事業の進捗状況について
- ・報告 新下関学校給食センターについて
- ・報告 第4次下関市子どもの読書活動推進計画（案）について
- ・報告 福祉バス事業について
- ・報告 令和5年度の高齢者及び障害者の虐待の状況について
- ・勉強会 不登校支援の取り組みについて（教育委員会）
- ・現地視察
 - こども発達センター、こども発達センター・どーなつ（福祉部）
 - 中央こども園（こども未来部）
 - 中・高校生等駅周辺学習スペース「エキスタ」（教育委員会）

市民と議会のつどい（11／11）

テーマ 地域包括ケアの取り組みについて
 ～住み慣れた地域で安心して生活をするために必要な支援とは～

第4回定例会（12／3、5、16）

- ・報告 中・高校生等駅周辺学習スペース提供事業の利用状況について
- ・報告 第4次下関市子どもの読書活動推進計画について
- ・報告 “F o r K i d s” プラン2020の改定について
- ・報告 “F o r K i d s” プラン2025（案）について
- ・報告 福祉プラザしものせきについて
- ・勉強会 地域包括ケアの取り組みについて（福祉部）

第1回定例会（2／18、20、26）

- ・報告 第4期下関市教育振興基本計画（案）について

- ・報告 下関市立「学びの多様化学校」の設置について
- ・報告 下関市立就学前施設の整備基本計画（第3期計画案）について
- ・報告 “F o r K i d s” プラン2025（案）について

○ 結果の概要

（1）子育て支援について 及び（4）子育てに係る人材不足について

- ・放課後児童クラブにおいては、支援員の負担軽減を目的に定員管理を厳格にしたため、待機児童が増えている。また、保育園においても、慢性的な保育士不足や第2子以降の保育料無償化により、待機児童の問題が発生している。保育園や放課後児童クラブの待機児童の解消を大胆、かつ早急に進めることは、働きたい保護者が働けるようになるだけでなく、人手不足の解決と貧困対策にもつながることから、放課後児童クラブの民間委託や、定員に余裕のある放課後児童クラブや保育園の活用などについて、しっかりと実行に移すこと。また、放課後児童クラブについては、空き教室の確保等に関し、教育委員会との連携を強化すること。
- ・こども発達センターの設備の改善とさらなる充実を早急に実施すること。
- ・こども家庭センターの役割は子育てに困難を抱える家庭に、切れ目なく、漏れなく対応し、一体的な組織として子育て家庭に対して相談支援を実施することである。こども家庭センターが、積極的に活用できるように、周知に努め、1件でも多くの相談を解決すること。
- ・「“F o r K i d s” プラン2025」については、計画策定後も既存の計画に縛られることなく、課題の解決のためには、必要に応じて計画に変更を加え、その解決に迅速に取り組むこと。

（2）高齢者の福祉について

- ・介護人材については、現状において多くの事業所が人手不足に陥っており、2025年問題、2040年問題を踏まえると、今後、介護人材不足がますます深刻な課題となることから、人材確保のためのさらなる対策に早急に取り組むこと。
- ・フレイル対策など健康寿命を伸ばす取組を強化していくこと。

- ・地域包括支援センターは、高齢者のあらゆる問題に対応し、様々な情報も集まる地域の総合相談窓口であり、現場の負担も大変大きい。行政がしっかりと現場の声を聴き、強力に支援すること。
- ・高齢者は、交通弱者であるだけでなく、ごみ出し問題や認知症の問題など多岐にわたって多くの悩みを抱えているため、部局を超えた対応をすることで、解決していくこと。

(3) 子どもをとりまく教育環境の充実について

- ・不登校児童が増加している状況を踏まえ、第三の居場所を増やしていくこと。
- ・行政視察で訪れた調布市の青少年ステーションCAPSは、中・高生のための児童館のような施設であり、中・高生の第三の居場所として機能している。本市には、そのような施設がないため、義務教育が終了しても、切れ目ない支援が可能となるよう、青少年ステーションCAPSのような場所をつくること。
- ・学びの多様化学校の設置を早期に実現し、不登校児童の居場所を増やすこと。
- ・行政視察で訪れた多摩市立中央図書館では、親子で訪れやすい環境が整備されており、本の貸出冊数も増えていることから、本市においても他市の取組を参考に、図書館の在り方を柔軟に考え、図書館の魅力を向上させること。